

# 喜怒哀楽



AUGUST-SEPTEMBER

# 8-9

Vol.87

「喜怒哀楽」は、文芸を楽しむ方々の活力の源を目指し(株)ミュージック・コーポレーション喜怒哀楽書房が隔月発行している情報誌です。

詠み人応援マガジン・詩歌俳壇ニュース

## CONTENTS

笑顔礼讃西東

白金蔭 光成高志 (千葉県・我孫子市) 2~3

岡村君枝 (茨城県・龍ヶ崎市)

浅海和代 (東京都・渋谷区) 3~4

詠み人スクランブル

《あなたが好きな花火は何ですか?》10~11

新潟ぶらり／會津八一の歌碑 12

詠み人の『リレーエッセイ』 歌人 雪舟えま 16

「なつかしい遊び・玩具」シリーズの3回目。浮いてこいは浮人形ともいい、水遊びや行水の際に使用したおもちゃの総称。現在はビニールや発泡スチロールの軽い素材が主流ですが、昭和初期には彩色したブリキの金魚等が多かったようです。水しぶきとともに、ぷくんと浮かびあがって。

温古知新 ④

## 「菜根譚」13

暑い日々が続いておりますが、今回も「菜根譚」にお付き合いましたければ幸いです。さて、今回は……。

吉人は作用の安詳なるを論ずるまでもなく、即ち夢寐の神魂も、和氣に非ざるは無し。凶人は行事の狼戾なるを論ずるまでもなく、即ち声音の咲語も、渾て是れ殺機なり。

(幸せな人は、日常生活が安らかで整っていることとは言うまでもなく、夢うつつの時もゆつたりとしている。一方、不幸な人は、日常の行動が捻くれて、悪い事は言うまでもなく、声や笑い声まで、全てが殺氣立っている。)

肝、病を受くれば、即ち目は視ること能わず、腎、病を受くれば、耳は聴くこと能わず。病いは人の見ざるところにて受けて、必ず人の共に見るところに発す。故に君子は罪を昭々に得ることなきを欲すれば、まず罪を冥々に得ることなかれ。

(肝臓が病むと目が見えなくなり、腎臓が病むと耳が聞こえなくなる。病は他人からは見えないところで始まり、やがて誰もが見える

ところに現れる。だから、人の上に立つ者は、人前で罪を受けたくないなら、先ずは人から見えないところでも罪を犯さないようにすべきである。)

幸か不幸かは行動にまで表れるということ。また、人に見えないと思っても、いずれは人目につくようになる。日ごろの行い、心身ともに健全であることが大事ですね。

福は事少なきより福なるはなく、禍は心多きより禍なるはなし。唯だ事に苦しむ者は、方めて事少なきの福たるを知る。唯だ心を平かにする者は、始めて心多きの禍たるを知る。

(幸せは事件が少ないということ、不幸なことは、心ここに在らずという状態のことである。日頃苦しんでいる者は、事件が少ないことこそ幸福だと知っている。そして、心が穏やかな者は、心ここに在らずの状態が不幸だということを知っている。)

平凡なことが幸せなこと。そこに気付くことができるかどうか、幸せな人生を送れるかどうかの分かれ道、ということでしょうか。

今回は、49項から51項までをご紹介いたしました。難しいことですが、日頃の行いから、幸せを呼び寄せたいものですね。何気ない日常から、すべては決まると心していきたいと感じました。

(古川久美子)

# 『白金葎』

## 5周年記念拡大句会

編集・代表 光成高志様

(千葉県・我孫子市)

6月30日、5月に出版した合同句集

『白金葎』の出版記念祝賀会を兼ねた拡大句会が銀座「らん月」において開催されました。静岡の「彩俳句会」主宰の平野ひろしさんをゲストにお迎えし、11名の方々がランチとお酒とともに堪能した記念句会の模様です。

まずは平野さんのご挨拶より。

「俳句を始めて64年。ようやく俳句がわかってきたかなと思う。俳句にはやはり旗印が必要で、結局それは芭蕉に行きつく。芭蕉の「謂ひおほせて何かある」という言葉は、すべてを言い尽くしてはいけない、でもそこには「何か」がなくてはならないということ。何か。俳句は「詩」であるからまずは詩がなければ。俳句の一番のコツはしゃべらないこと。飯田龍太は「俳句は結論だけを言えばいい」と言っているが、余計な



▲「彩」主宰 平野ひろしさんをゲストに

ことは言わず、詩があるかどうか、選句もそれを基準に選ばせていただいた」

本日は5句提出の7句選。

以下、平野氏の特選1句、入選6句、予備選6句から講評スタートです。

### ◎特選

蠅取蜘蛛三面鏡を跳び回る みち

獲物を捕る蠅取蜘蛛はライオンのよう。それが三面鏡のところにおいて、更にその驚きが3倍に拡大されている。そこがおもしろいところ。芭蕉は「新しみは俳諧の花なり」とも言っているが、柳の下のドジョウはせめて2匹くらいにして、従来の路線上にはない何らかの新味を出してほしい。伝統は推し進めないとすたれる。新しみは選句においてかなりのウエイトを占める。

### ○入選6句

消ゆるとき最も烟る蚊遣香 宏之助

盛んな時なら俳句にならない。「消ゆるとき」としたところが、俳句のコツを知っている人の句。

銀座にもなんじゃもんじゃの花のみち 陽一

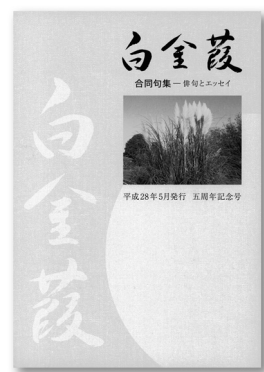
誰も採っていないが「なんじゃもんじゃの花のみち」に、銀座にもあるんだという驚きと新鮮さを感じる。

夏燕一筆書きで空を切る 正美

これも誰も採らなかつたが「一筆書きで」といったところに、夏燕のある瞬間の情景が見えてくる。

今日は今日明日は明日髪洗う 敦子

これは、尻をまくったところがいい。中村草田男の句「浮浪児昼寝す」なんて



▲5周年を記念して発行した『白金葎』

もいやいや知らねえやい」という句に通じるところがある。

尺取が攀ず天平の円柱 宏之助

優等生的な句。昔も尺取はいたであろうが、天平と平成の時代においても尺取が攀じている。そこに一つの詩を見た。情景まで見えてくる。

メンバー：円柱が※エンタシスとも取れ、ギリシヤにも通じると思った／尺取を持つてきたところでもあったな、と。天平と尺取でウイットもあるし俳諧味がある／円柱ではなく、丸柱とすればエンタシスとは思わない。

※エンタシス：建築において円柱の下部から上部にかけて、もしくは中部から上部にかけて徐々に細くした形状。古代ギリシヤ発祥の建築方法で、法隆寺の柱にも用いられている。

↓尺取が攀ず天平の丸柱

蛸輪の隠るレタス地に返す みち

農業の機微に関する句。実際に菜園をやっていないと、こういう句はなかなかできない。

□予備選6句

富士裾野瘤山幾つほとぎす 高志

砲弾を凌ぐ大きさ黒西瓜 高志

作者：今は真つ黒い品種の西瓜がある。ここに来る前に三越デパートの地下で見たが7000円だった(笑)。

犬眠る玄関上の燕の子 みち

犬は眠っているが、犬がいるということで、燕の子も安心して眠っている。人の生活と共存しているような和やかさが感じられる。

パリー祭口紅赤き女学生 敦子

取り合わせのおもしろさ。

敷石も土蔵も白し蟬しぐれ 敬司

簡潔に作られているところがいい。蟬しぐれに對して、いかにも夏らしい季節感が出ています。

夏至暮れてまだ天上の藍の色 幸一

夏至は昼が一番長い季節。なかなか暮れずに天上には藍の色が残っている。これも季節感がいい。「天上の」ではなく「天上に」がいい。

他互選高得点句

大樹海音なき滝を垂らしける 幸一

類形が多いから採らなかつた。作者：いやあ全く新しい句だと思っただけです(笑)。

沐浴の貴婦人のごと花海芋 興正

メンバー：花海芋をもつてきたところがすばらしい。エロスがあつて文句なしにいただいた。貴婦人も効いている。

蝉が好き蟬啼く迄は存へず 陽一

「迄は」ではなく「迄を」の方がいい。館ぼんの臍がしんみり虎が雨 孝三

これはおもしろいと思つたが「しんみり」がねえ。「虎が雨」は虎御前の涙雨だから言い過ぎ。もっと即物的に館ぼんの臍の様子だけを言えばいい。例えば「館ぼんの臍が黒々虎が雨」とか。

黒南風やかつて銀座に真砂女あり興正

報告的な感じがする。「卯波」と真砂女の店の名前を言つた方がいい。↓黒南風やかつて銀座に「卯波」あり

# 笑顔礼讃西東

おしほりを絞る銀座の残り梅雨 陽一  
メンバー：これも今の時期にぴったりだ。

他には：

水色の毬あぢさるは蔭の花

最近のアジサイは品種改良されて豪華絢爛、蔭という感じはない。

メンバー：昔はそうだったけど今は違う。感覚が古いよ、古すぎる(笑)。

大苧切電話線にて声を出す

それを見ない第三者にもわかる表現をしないと意味が通じない。

作者：電話線の上で大声で鳴いている大苧切、電話線がいいと思って作った。これ今日一番力を入れたんですがダメですか(笑)。

↓電話線掴み苧切声を出す  
ベント乗る夏服の皺お洒落なり

高級車に乗っているのにしわしわの服、それがおしゃれということ？ どちらかというと川柳のおもしろさ。

作者：お洒落なりは言いたくなかった。メンバー：じゃあ入れなさいいい(笑)。

↓皺々の夏の服なりベント車に

青海波笙の響きよ夏神楽

メンバー：青海波つて模様のことでしょう？ よくわからなかった。

作者：青海波は模様の意味もあるが、雅楽の舞のこと。

平野：いずれにしても、青海波、笙、夏神楽と賑やかすぎる。

↓始まりは青海波なり夏神楽

(お一人がタブレット端末で「青海波」を調べ、意味とともに皆さんに雅楽の音を聞かせてくださる)。

メンバー：この音を聞けばもう一句でさるね(笑)。

平野ひろしさんの5句

鶏小屋に振子の時計明易し

包丁の刃金のほひ初鯉

水溜りすだまの如く水馬

若葉青葉溶岩のあばたは火の記憶

遺跡発掘土を囁んでは蟻走る

★合同句集といえど、通常の各人の俳句撰集のほか、吟行句撰集、兼題句撰集、ハガキ句報、芭蕉に関する評論29回分、エッセイ等と約250ページにも及ぶ5年間の集大成。日々の積み重ねの偉大さと、その熱意に圧倒される。これも文芸を好み、信じ、楽しむ代表の光成さんのユニークで皆をその気にさせる主導があればこそ。帰り際、考三さんが言っていた「新しい句に巡り合えると、気持ちも若返った気がするんですよ」の言葉と平野さんが強調された「新しみ」。いろんな意味において心したい言葉でした。(木戸敦子)



▲平野さん曰く「女性の方がうまくなるのが早い」  
前右列から2人目が代表の光成さん

岡村君枝様 (茨城県  
龍ヶ崎市)

句集『日向みち』

浅海和代様 (東京都  
渋谷区)

句集『花のした』

本年4月と5月、ほぼ同時進行で『句集日向みち』と『句集花のした』を上梓された岡村君枝さんと浅海和代さんにお話をお聞きしました。

◎句集を出されたきつかけから

岡村：細々ながら俳句を始めて30年余り。先輩からもたくさん句集をいただいたが、いつかは自分の句集を…と思いつつも、日常の平凡な駄句を本にする意味を見いだせずにいた。所属する「炎帝」の鴻巣真木先生に相談したところ「人それぞれ。ぜひ君枝さんなりの句集を作って」と背中を押していただき、自分なりの句集を出す決意をした。

嫁に行った先の父は華道の家元で俳句も好き、置いてある本を読んで俳句ついでなものだなあと思っていた。

浅海：俳句を始めたのは下の子が小学



▲ほとんど日中はお留守の行動派岡村さん

校に上がってから。和裁の他に一人で行けることはないかと思つたとき俳句も苦手。だつて父は「くだらないことは喋るな!」という昔気質の人だつたら、ようやく今、喋られるようになった(笑)。最初はNHKの通信講座で俳句を学び始め、そのスクーリングで岡村さんと知りあい意気投合。今回岡村さんが句集をまとめると言うので、私も!と乗つた。主人が存命の時、まとめてあげるからと言つてくれたのに、ついにやらず仕舞いだったから。

◎NHKの通信講座ですか

浅海：一人で俳句を作つていてもだめだと思つて。通信講座はよくできていて、1年間に提出する分の用紙が届いて、季節が出たり、回によって選んでくださる先生を選べたり、飽きないように、でもしっかり上達するように工夫がされている。

岡村：そんなにお安くもないものね(笑)。毎年1月、NHKホールで開催される全国俳句大会には必ず参加しているが、大勢の人がいるのに「だいたい何時頃ね」というだけで不思議と浅海

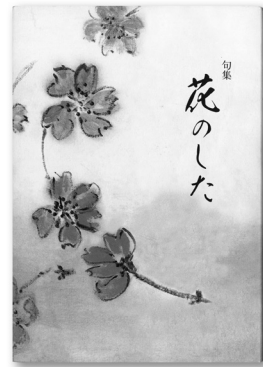


▲月1回絵を教えている90歳の浅海さん

# 笑顔礼讃西東



▲題名の通り前向きで気持ちのいい句が多い



▲表紙カバーの桜の絵は浅海さん自身による

さんと会えるの。  
浅海：誰と話すわけでもないけど、会場の雰囲気を楽しんで、また1年頑張ろうという気持ちになる。後日、放映もあつて、その方がはつきりとよく見えるのね(笑)。

Q 句集ができたときは？

浅海：うれしくてうれしくて、だからいつも袋に入れて持ち歩いているの。誰かに会ったらあげようと思つて。  
岡村：あんなにバラバラな原稿だったから、こんなにきれいにできて感激。よく完成したなど。

Q 周囲の反応はいかがですか

岡村：「炎帝」に入っているの、会の方からたくさんのお手紙をいただいた。下手なのに、皆さん絵を入れたのがとてもよかったです。  
浅海：私はまだ、兄弟や親族に配った

だけ。俳句や絵は門外漢だから反応もなにも「姉さんは高級だねえ」とか。姪や甥には強制的に読ませたり(笑)。

岡村：この句集を出すまではとがんばつてきたけど、これで一段落。最近長時間立つて動くこともつらくなつてきて、先月フラダンスはやめた。

浅海：でも他にいろいろやつているじゃない。俳画、カラオケ、旅行、筋トレ、体操教室に…

岡村：筋トレは週3回ペースで10年続いている。ほら、この辺は筋肉がついて固いわよ(笑)。何もしないで家にいたらTVを見るだけ、それは絶対だめだと思つて。

Q 面倒だと思つたりすることは？

岡村：面倒？ そんなこと考えたらだめよ。決まったところは行くの。

浅海：岡村さんの句集、装丁はやわらかい印象だけど、読むとそのどしりとした骨太な生き方が出ている。私はふわふわしてダメ。

岡村：それじゃあ太っているみたいじゃない(笑)。18〜23歳までは戦争で青春はなかった。すぐに働きに出て勉強なんてできなかったから、3番目の子どもが幼稚園に入った35歳のとき高校に入りなおした。卒業時のあの感激は忘れられない。今はもうおつりの人生。やりたいことを楽しみながらやらなきゃつまらない。

浅海：私もそう。もうおつり。先日、90歳で20本以上自分の歯があるということまで表彰式に行つたら、100歳で20本ある方がいたのよ！ 普通は90歳でおしまいでしょ、思わず笑つちゃつた。

できるところまでは、今教えている絵の教室を続けていきたい。

Q これからは？

岡村：子どもや人のやつかいにならないよう、可能な限り自分でやりたい。子どもには「電話をかけて出なかつたら死んだと思つてね」と言っている。時々顔を見せてくれれば、それで十分。

浅海：うちも時々、生存確認のために電話がくるけど、あまり喋られると「もうその話、終わった？」つて言つて切つちゃう。絵も描きたいのに、その間何もできないんだもの(笑)。

岡村君枝

強霜に弱さは見せぬ花芽かな

限りある命の深さ青葉潮

日の恵みみな平等に日向ぼこ



▲「俳句を道づれに暖かい温もりのある道を歩きたい」と岡村さん

浅海和代

柩にて帰る妹終戦日

憂きことは風にまかせて揚雲雀

どんぐりの陽のぬくもりをポケットに



▲「9人兄弟だったから自然と童の絵が多くなる」と浅海さん

★からからと、常に笑いが絶えないお二人の会話は、失礼だがとても84歳と90歳のものとは思えない。聞けば、苦労は多々あれど、それらすべてを受け入れ、為すべきときに為すべきことをきつちりと果たしていらつしやる。それぞれに伴侶をなくされて10年と20年。健康に留意し、常に自分を楽しませる依存しない自立した生き方は、友あればこそより強固に。骨太、ふわふわとも実にいい味を出しておられました。(木戸敦子)



▲岡村さんに届いた、句集へのお手紙



▲タイプは違えど深くご自身の生を謳歌しているお二人



# 投稿作品

※ 誌面の都合上、300作品を超える投稿があった場合、掲載はお一人さま1作品、先着300名様までとさせていただきます。  
 ※ 今回の投稿作品数は、261でした。  
 ※ しめきり2016年9月16日(金)まで  
 ※ 作品は原稿どおりに掲載しております。

## 俳句

- 1 大宮の次は仙台星祭  
三津木俊幸(千葉県)
- 2 さるすべり根本に一つ休み石  
檜山とり子(東京都)
- 3 万緑に染まりて命永らへる  
井原穂子(東京都)
- 4 紫陽花や明月院(傘つづく)  
天野輝子(東京都)
- 5 雨ためて紫陽花色を重ねゆく  
松前邦広(千葉県)
- 6 竜馬像謎の右手や雲の峰  
近藤薫也(千葉県)
- 7 大銀杏木霊宿りて黄葉差す  
緑川禎男(埼玉県)
- 8 誕生日スタート台に八十五坂  
花塚三郎(千葉県)
- 9 ほうたるの迷ひ星座へ紛れ込む  
川口 襄(埼玉県)
- 10 紫陽花や半鐘櫓の残る町  
林 克(福島県)
- 11 青鳶の広がる中に少年が  
白戸麻奈(東京都)
- 12 アカシアの香を放つ房しろしろ白  
水落重式(新潟県)
- 13 妻急きて青大将を見たと言ふ  
佐野和彦(静岡県)
- 14 遠く聞く祭囃子の淋しさよ  
高崎登喜子(東京都)
- 15 梅雨晴間菩提樹香る寛永寺  
古谷 力(東京都)
- 16 紫陽花の寺の護摩堂昼灯  
津田忠彦(岡山県)
- 17 蕨狩出がけの頭痛治りけり  
重原 昇(新潟県)
- 18 水辺なる昏まで續く囁の声  
佐野 繁(静岡県)
- 19 桐の花曾孫夢見るバレリーナ  
堀木和子(大阪府)
- 20 梅雨晴や敷石に残る光る筋  
小泉和明(茨城県)
- 21 足叩き踏み出す一歩夏に入る  
黒岩正子(埼玉県)
- 22 夏木立天蓋として馬頭尊  
小澤円梨(静岡県)
- 23 万緑やアクセル全開余生かな  
松尾らん(東京都)
- 24 先制の一打に沸きし汗みどろ  
内河邦久(東京都)
- 25 ひらくまでよろけてのぼる花火かな  
二瓶邦枝(埼玉県)
- 26 水攻めの跡定かなり夏の雲  
大谷茂 琦玉県)
- 27 帰省子のおふくろと呼ぶ友の前  
山崎吉晴(群馬県)
- 28 土に生き巡る余生の柿若葉  
阿部幸子(宮城県)
- 29 母の日や緞台見では幼き日  
有坂馨園(福島県)
- 30 断絶と差別化愁ふ沖繩忌  
福岡 悟(東京都)
- 31 古書さらしわが生涯の昭和恋ふ  
田中 昶(鳥取県)
- 32 校門のどつと明るき更衣  
宮宅芳子(岡山県)
- 33 この場所は君待つところ落し文  
小林春雪(新潟県)
- 34 いちはつとウルトラマンのお面かな  
安部 哲(新潟県)
- 35 軒先に菖蒲さしたり邪気はらう  
杉村美保子(岩手県)
- 36 鶏むしのごとく山茶を摘みにけり  
津田吾燈人(高知県)
- 37 鳳凰も心惹かれし桐の花  
西條公雄(埼玉県)
- 38 あどけないピアスの穴や夏の風  
浦橋渴雪(兵庫県)
- 39 日帰り湯嫁が持ち来し胡瓜漬  
大橋恒次(新潟県)
- 40 奥さんは命綱たり豆御飯  
岩村 昇(神奈川県)
- 41 虹の根に介護施設の立ち並ぶ  
岡村君枝(茨城県)
- 42 七夕の願ひ書く子の思案顔  
長峰正晴(千葉県)
- 43 十葉や日の斑さざめく蔵の蔭  
上村元義(神奈川県)
- 44 小綬鶏に誘われ枕の向をかえ  
大塚徳子(埼玉県)
- 45 さくらんぼあまりに遠きポルトガル  
小島岳青(新潟県)
- 46 深山を縫ふてゆくなり滝笈  
澤 雅子(大阪府)
- 47 袖口をひとつ折り上げ街薄暑  
阿部徳夫(宮城県)
- 48 ロープウェイ万緑の山たぐりよせ  
井田由利子(宮城県)
- 49 父の日や碁盤ひとつを形見とし  
堅田秀子(東京都)
- 50 万緑やグランドゴルフに参加する  
道給一恵(埼玉県)
- 51 鈴成りの枝引きてもぐ実梅かな  
杉原明子(静岡県)
- 52 暖かい母の声する千の風  
大久保アヤ子(東京都)
- 53 曝書してはるかな友の手紙出づ  
片山茂子(埼玉県)
- 54 青鳶に窓あり愛の母子像立つ  
居原田連星(大阪府)
- 55 五月雨に負けてぶぶ漬吸りたり  
吉里ひとみ(東京都)
- 56 包丁の切れ味がトマト切る  
田野倉訓郎(東京都)
- 57 あおあおと苔の宇宙の広がりぬ  
佐々木素風(新潟県)
- 58 西瓜の種小指で弾く夕かな  
湯浅芳郎(岡山県)
- 59 鎌倉大仏が泣いているなり梅雨早  
仁藤ひろじ(埼玉県)
- 60 額の花星座のごとく咲きにけり  
松嶋光秋(東京都)
- 61 霊園のすみに鶯老いを啼く  
古川正栄(千葉県)
- 62 蝸牛仔細な話は殻のなか  
池田 岬(千葉県)
- 63 泡だつはをんなのころサングラス  
鈴木岑夫(千葉県)
- 64 移り気てふ紫陽花の青が好き  
大阿久雅子(埼玉県)
- 65 遅るるも佳しや人の世遠火花  
城山憲三(愛知県)
- 66 春の花惜しみながらも夏は来ぬ  
佐伯セツ子(香川県)
- 67 沖を背に水脈引く夏の漁船かな  
堀田寿美子(北海道)
- 68 竹林に風を集めし夏館  
中嶋清子(佐賀県)
- 69 短夜や地震のその後に思い馳せ  
日名子春実(群馬県)



- 70 モデルにも五分は長し春時雨  
浅海和代(東京都)
- 71 籐椅子や父の書棚の三国志  
一瀬正子(埼玉県)
- 72 泣きじやくり泣きじやくりつつ心太  
井上静夫(栃木県)
- 73 晩鐘の古刹の里や錦鯉  
本庄準也(埼玉県)
- 74 山腹の火となる蓮華つじかな  
石井一枝(埼玉県)
- 75 濃く淡くもゆる紫陽花小糠雨  
清まさじ(静岡県)
- 76 老いまじと心して持つ絵筆かな  
菅原茂子(宮城県)
- 77 千里浜の砂細やかや能登の秋  
羽根田明(神奈川県)
- 78 紫陽花や雨にぬれてる麗しい  
五味田幸夫(神奈川県)
- 79 六月の園児つくりし泥団子  
井上氣海(広島県)
- 80 混声の深き祈りや原爆忌  
齊藤安弘(神奈川県)
- 81 走馬灯のやうな話や八十路の宴  
寺内 信(埼玉県)
- 82 夏草の如く昭和を生き孕寿  
田中美智子(埼玉県)
- 83 向き合ひてたがひに無言冷奴  
堀井和(神奈川県)
- 84 夏日暮るせせらぎの音近くして  
川嶋法子(東京都)
- 85 わが命終知らず生かされ沙羅の花  
梶 鴻風(北海道)
- 86 黒斑紋あり源流の巨山女  
津布久信雄(東京都)
- 87 同窓会校歌にて果つ麦の秋  
竹本美美子(新潟県)
- 88 雲の峰生きてる不思議死ぬ不思議  
大窪美代子(大阪府)
- 89 おおばこや踏まれる路傍なせ好む  
藤井春三(埼玉県)
- 90 色深む枇杷の実見上げ庭掃除  
田野井一夫(栃木県)
- 91 サービスの虫の音聞かせ理容店  
村田吉雄(東京都)
- 92 ひき蛙指揮者いるらし一せいに  
鏡たか子(山形県)
- 93 よく来た天道虫と老一人  
宇田川正雄(埼玉県)
- 94 夏の月出て見出しには銃乱射  
岩田 信(神奈川県)
- 95 やれ打つな蛇と生まれただけのこと  
増本和子(大阪府)
- 96 脱走と紛ふ短き蟻の列  
今井勝子(新潟県)
- 97 眠る頃ソロのかけあいひきがえる  
富樫和子(山形県)
- 98 平凡な暮しの中の新茶かな  
青木ケン子(埼玉県)
- 99 ひよ南下栗駒の雪早からん  
森俊彦(神奈川県)
- 100 住みにくき国になりしか夏燕  
邑橋節夫(兵庫県)
- 101 紫陽花の雫の映える遊歩道  
中田文子(大阪府)
- 102 山峡の小さな堰の春の水  
金子範子(高知県)
- 103 芍薬のうなじ美はし紺の富士  
神 一男(静岡県)
- 104 時の日や原爆時計が戻る夢  
菅井文男(新潟県)
- 105 濃き緑勝りゆく山夏若き  
中山日出子(大阪府)
- 106 かびくさい乙三つある通信簿  
磯部 力(新潟県)
- 107 「天狗」読みしおりを戻す桜桃忌  
中村康浩(福岡県)
- 108 化粧塩ふらるる鮎や一文字  
中野勝子(鹿児島県)
- 109 くろがねの音ひびきあう耕耘機  
高杉杜詩花(北海道)
- 110 紫陽花の美にいやされし医者帰り  
長谷部喜代子(大阪府)
- 111 次の息するまで溺るバタフライ  
椋本望生(大阪府)
- 112 綾取りを妻の教へし夏座敷  
有田俊一(埼玉県)
- 113 端居して逢魔が時を慈しむ  
村山徳英(埼玉県)
- 114 生かさされて今日の一日よ半夏生  
山崎鶴恵(鹿児島県)
- 115 紫に昏れる札幌リラの冷え  
柴田恵美子(北海道)
- 116 而して鯉ともならず夏を病む  
倉田淑子(東京都)
- 117 薫風の渡り廊下や休校日  
浅野信廣(宮城県)
- 118 紫陽花の雫に濡れて見とれをり  
中川義彦(新潟県)
- 119 仕留めしより一襟の情油虫  
大矢知順子(神奈川県)
- 120 よさこいの汗吹きとばす青葉風  
鈴木蝶次(宮城県)
- 121 くちなしの華やかな色白さえる  
中村和弘(愛知県)
- 122 ほおずきや袋に抱きし夢いくつ  
本間 進(新潟県)
- 123 庭つじ見る人なくも咲きほこり  
本間ミネ(新潟県)
- 124 風薫る頭髮なびき京の川  
油谷博子(兵庫県)
- 125 後ろ向きにくるくる回す夏帽子  
高垣勝代(大阪府)
- 126 人の世に悩みつきものねぢればな  
石川郁子(埼玉県)
- 127 猛暑日やエレベーターは空っぽで  
星 一子(神奈川県)
- 128 兄の忌や灯して偲ぶ夏座敷  
駒場京子(神奈川県)
- 129 初夏をゆく風と緑を友にして  
増田公代(東京都)
- 短歌**
- 130 老いの眼に子の便り読む楽しみと子  
に便り書く楽しみ尽きず  
北澤実夫(東京都)
- 131 山帽子日ごと白さを増している郭公  
の声近く朝に 土屋喜雄(山梨県)
- 132 緑なる城址の辺り散歩道主気分で肩  
を怒らせ 山口嘉子(三重県)
- 133 さつき花露にぬれつ、散り敷きて踏み  
行くことさへはばかれる思ひ  
中田妙子(東京都)
- 134 真夏日の過ぎたる浜にやわらかく焼  
玉船に日はそそがるる 北岡 晃(兵庫県)
- 135 ものの名があれそれほれと出てこな  
い脳細胞の老化なるべし 野木宗信(奈良県)
- 136 娘と孫の待つ大磯に今年来たりあじ  
さいたわわ彩づきており 高須 孝(愛知県)
- 137 北方の四島よ返せと今年もまた父祖  
の魂呼ぶ岬に立ちて 早坂紘司(北海道)
- 138 沖繩の怒りメテオで知りたれどそ  
の美しき海を恋ふのみ 久本にい地(岡山県)
- 139 原発の廃墟と化した映像に汚染水タ  
ンクの不気味に並ぶ 山田良男(埼玉県)
- 140 火の国の激しい地震に思い出づ若駒  
遊ぶ草千里ヶ浜 関原幸子(東京都)

141 いつまでも元気な私ではないと老妻の電話誰れにかけしか

青木日出男(群馬県)

142 愛し教へ子訪ね来るたま〜妻の命日なるとは 今井忠一(埼玉県)

143 ひい孫が襦袢を脱ぎて走り出すとき

濱崎祥子(鹿児島県)

144 初売りの自転車に試乗の少年ははずむ身体に緊張の顔

寒川靖子(香川県)

145 駅弁の蓋の飯つぶひろい食う昭和一桁生れの夫婦 黒澤正行(福島県)

146 朝霧の静かに流る宿川治団体つばめ往きつ戻りつ 宇都木安子(東京都)

147 前を行く人に合わせた足運びいつしかはなれ年の差を知る

渡部美代子(山形県)

148 後二年で百年となりし商いを亡夫偲びつ自分史を書く

峯岸信子(東京都)

149 コンビニの棚にあふれる商品の手に取ることも無きものあまた

桑原謙一(群馬県)

150 白雲のゆつくり流れツバメのみ一直線に子の待つ巢へと

高橋登志子(新潟県)

151 白鳥の飛来地なるに七羽死ぬ楽園といはるる池花池に

長谷部ミイ(茨城県)

152 やうやくに「亀寿」の身そばに発てる母亀も入り来る納骨法要の朝

西山悌三郎(高知県)

153 わが娘細かき事に気遣ひて呉れが嬉し独り居われは 小暮昭司(群馬県)

154 手造りの鉢に植えたる苦瓜の花の記憶の遠きふるさと

坂元正憲(東京都)

155 白鼻心カラスに百舌に狸まで狙った母私等食べた 田中豊恵(新潟県)

156 苗植えし田に筑波嶺の映りいて白鷺の群低く飛び交う

合田浩子(茨城県)

157 「ムリするな」君の部屋からもれる灯に語りかけてる午前二時

若月理依子(新潟県)

158 娘の夫が吾より先に逝きをりぬ衝撃うけて愕然とする

西山知子(岡山県)

159 折鶴にこめた願いの叶う日に肩抱き寄せる人のやさしき

岩崎令子(大阪府)

160 我が町は猛暑で宣伝あついでと雪熊食べて暑さをしのぐ

新井 賢(埼玉県)

161 一匹の蟻に歩幅は乱れたり顧みずれば雲は沸き立つ

島田實貴男(群馬県)

### 川柳

162 ひと目惚れそれがほんとの惚け上手

渡邊 清(宮城県)

163 新たな判断過去を舐めている

原 崇雄(埼玉県)

164 ストレスも段差も少しある我が家

木村洋一(新潟県)

165 旅の空終りはいつも始まりだ

松田重信(埼玉県)

166 気兼ねなく梅が頼める仲になり

丸山芳夫(東京都)

167 探せどもアベノミクスは辞書になし

関本 守(新潟県)

168 病院をはしごしているまだ元気

守屋高雄(岩手県)

169 ぼろぼろでよくも走ったみずき誉め

(野口みずき引退に思う)石原 岳(群馬県)

170 骨太を骨抜きすればぐちゃぐちゃに 橋本世紀男(東京都)

171 2センチのかまきりかわい威嚇して

河野静子(埼玉県)

172 蛭さん中確かめよ甘い水

細川光子(栃木県)

173 政治家のモラル欠如に国惑う

藤沢健二(千葉県)

174 手をつなぐやがて一人となるふたり

小山恵美子(大阪府)

175 ひがわりのコーヒーのようわが人生

阿部澄江(宮城県)

176 八十年生きて家族葬なろうとは

岩崎政弘(岡山県)

177 風土記めく古民家でんとユータウン

木村誠一(神奈川県)

178 朝日あび恵みいたたく独活や露

久保寿雄(北海道)

179 十八歳少年Aら投票に

山口千鶴子(東京都)

180 日常が割り込んでくる旅の帰路

目黒豊光(福島県)

181 ひと夏のはげしき恋もあつさゆえ

大橋絵代(千葉県)

182 失恋もこれですっきり流せたわ

柳澤京子(宮城県)

183 何事も元気な気分頑張ろう

松田義登(福岡県)

184 旨いのよしわくちやの手で漬けた梅

奥那於子(大阪府)

185 食べ物がなくてもあったお裾分け

鈴木義雄(福島県)

186 一票の重さは軽さ子猫鳴く

大場伸月(長野県)

187 ハンカチに喜怒哀楽を流し込む

野田明夢(新潟県)

188 生存の確認メールが今日もくる

和崎治人(山口県)

189 ああ言えばこう言いながら五十年

長谷川庄二郎(千葉県)

190 ほんとうか葬儀屋からの割引券

近藤富夫(東京都)

191 はるばると二円不足のまま届き

奈倉楽甫(愛知県)

192 何よりも消毒が先都知事室

小林七重(新潟県)

193 薔薇咲きて流行し歌をくちずさむ

小山羊子(新潟県)

194 核武装それらも必要かもしれぬ

高柳閑雲(愛知県)

195 肥後の国手まり歌さえ鳴り止まず

沖 惇子(大阪府)

### フォトイック



(写真提供・伊丹三樹彦さん)

こちらの写真を見て

詠んでいただきました。

196 一人旅自由自在の夏がゆく

三津木俊幸(千葉県)

197 旅かばん置いてひと息風薫る

井原毬子(東京都)

198 美女が見る視線の先が見てみたい

松前邦広(千葉県)

199 家出して親の恩知る秋近し

近藤薫也(千葉県)

200 黒髪の流れに涼し美魔女かな

松田重信(埼玉県)



- 201 髪の毛に色気ただよう夏来たる  
水落重式(新潟県)
- 202 潮風や肌こんがりとサングラス  
佐野和彦(静岡県)
- 203 潮の香に身を浸しをり雲の峰  
阿部 至(埼玉県)
- 204 人の世に生きるは難し人魚姫  
高崎登喜子(東京都)
- 205 涼風を総身にうけて髪を梳く  
小泉和明(茨城県)
- 206 サングラス友を待つ間の手櫛かな  
黒岩正子(埼玉県)
- 207 噴水に遅刻の彼を待つ私  
山崎吉晴(群馬県)
- 208 髪絡む風のいたすらイヤリング  
石原 岳(群馬県)
- 209 気になるが見ないふりして通りすぎ  
橋本世紀男(東京都)
- 210 初夏の川風涼し独り旅  
石尾曠朗(東京都)
- 211 つかれたのでもステキこのポーズ  
河野静子(埼玉県)
- 212 人魚か足はちゃんと二本ある  
濱田イサオ(福岡県)
- 213 手櫛して彼待つ恋の逃避行  
小山恵美子(大阪府)
- 214 「ああ最高」自由気ままな一人旅  
阿部澄江(宮城県)
- 215 「どうしよう」家出したけど行くあてもなし  
阿部徳夫(宮城県)
- 216 出水なくクマにもあわずひとり旅  
井田由利子(宮城県)
- 217 人魚姫否わが娘夏休み  
有田裕子(北海道)
- 218 サンセット眺むマニラの夏の暮  
山田楽山(埼玉県)
- 219 若葉風髪なびかせて独り旅  
関原幸子(東京都)
- 220 夏日向風を呼び込むモデル嬢  
片山茂子(埼玉県)
- 221 親指を立てても知らぬ野暮ばかり  
青木日出男(群馬県)
- 222 冷蔵庫に冷したビールあるかしら  
岩崎政弘(岡山県)
- 223 亜麻色の髪乙女よプールサイド  
居原田連星(大阪府)
- 224 エコサイド噴水目下小休止  
仁藤ひろじ(埼玉県)
- 225 少女いま夏の川面に諭される  
千代田栄次(東京都)
- 226 プール出て手櫛でおんな整える  
池田 岬(千葉県)
- 227 はつ夏のわたしは人魚ローレライ  
鈴木岑夫(千葉県)
- 228 プール出で人魚の如く梳る  
大阿久雅子(埼玉県)
- 229 黒髪が待ち侘びし候手櫛かな  
佐伯セツ子(香川県)
- 230 潮騒やこころ遠くへサングラス  
日名子春実(群馬県)
- 231 暑いのに荷物の番をいつまでよ！  
浅海和代(東京都)
- 232 飛び込みて人魚にならむそのうちに  
五十嵐陸博(新潟県)
- 233 洗ひ髪解し岸辺の人魚かな  
本庄準也(埼玉県)
- 234 現代の人形姫かと思えけり  
濱崎祥子(鹿児島県)
- 235 髪梳けばあの日あの時流れゆく  
坪田勝秀(鹿児島県)
- 236 潮風や夏が弾ける健康美  
目黒豊光(福島県)
- 237 一日の疲れを癒やす川涼し  
清まさじ(静岡県)
- 238 さりげなく休むなかにも科つくり  
宇都木安子(東京都)
- 239 雲の峰「荷物頼む」が遅いわね  
寺内 侖(埼玉県)
- 240 黒髪を解く旅愁や噴水池  
梶 鴻風(北海道)
- 241 夏は海自慢の髪を切ろうかな  
奥那於子(大阪府)
- 242 絶景に腰掛けポーズ旅乙女  
鈴木義雄(福島県)
- 243 誰を待つ旅の少女や風青し  
大窪美代子(大阪府)
- 244 所在無さ髪の手櫛の待合せ  
藤井春三(埼玉県)
- 245 見えそいで見えないミミの膝の奥  
山崎一嘉(愛媛県)
- 246 誰を待つ広場花やぐみりよくかな  
高橋登志子(新潟県)
- 247 潮風に汗ばむ髪をときほぐす  
和崎治人(山口県)
- 248 失恋の痛手悲しく旅に出る  
鏡たか子(山形県)
- 249 夏の海バックパッカー一人旅  
富樫和子(山形県)
- 250 故郷を離れ水面に母想う  
長谷川庄二郎(千葉県)
- 251 髪梳かす女怖ずに夏の川  
神 一男(静岡県)
- 252 髪を梳く人魚となりたしドナウ河  
菅井文男(新潟県)
- 253 洗ひ髪早瀬を前にひと想ふ  
北野耕兵(千葉県)
- 254 いっちゃった次の便まで一時間  
奈倉葉甫(愛知県)
- 255 ピチピチの娘も時にひと休み  
中林恵子(大阪府)



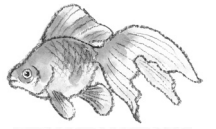
●俳句・川柳募集!!

- 256 憂愁の青春の夏還らざる  
村山徳英(埼玉県)
- 257 もう一度この若き日に戻りたい  
合田浩子(茨城県)
- 258 思ひ出の旅の終りや白い靴  
柴田恵美子(北海道)
- 259 玫瑰やわたしは私手櫛梳き  
菅原キイ子(宮城県)
- 260 ねえカモメ時間が無いのひとり行く  
杉浦俊雄(静岡県)
- 261 川風も一瞬止りひやとし  
山中たい子(大阪府)

右の写真から、自由にイメージし17文字(俳句か川柳)で表現してください。1枚の写真から想起される世界は無限大です。応募はアンケートトガキ投稿欄にて。ユニークなイック(二句)をお待ちしております!

(写真提供:伊丹三樹彦さん)P15上段に関連記事があります。





# 6月号の 心に残った作品

※より多くの作品を掲載したいと考え、大賞と、自句自解コーナーは年一回とさせていただきます。

## ◎短歌部門大賞

10 フクシマと呼ばれ疎まれ無辜民の塗炭の避難五年たちたり  
黒澤正行(福島県)

・フクシマの災害に対する人々の生きざまが如実に表現されている。天災人災問わず現実を直視している。山田良男(埼玉県)・福島の人達の悲痛な思いがよく詠まれています。早く復興する様お祈りしています。関原幸子(東京都)・メルトダウンしてから五年、まだ汚染地下水を防げない。「棄民」は止まること出来ず残念至極。菅井文男(新潟県)ほか  
8 瀬戸内の渚に老女佇みて戦死の父を待ちいるという 寒川靖子(香川県)  
・『岸壁の母』の瀬戸内版か。父を中国大陸でなくした私は、この種の歌に弱い。早坂絃司(北海道)・戦後七十年、いまだにこの様な短歌が詠まれる現実複雑な思いです。岩崎令子(大阪府)ほか  
1 われよりも先に逝くのはしのびなく 拝む夕日に雲のかかりて  
坂元正憲(東京都)  
・六年前に脳腫瘍で私より先に逝つてしまった娘を憶い私の胸につよく哀しく刻まれました。中田妙子(東京都)ほか

14 「胸」の字の中に凶あり何故なるかそのやわらかき美しきものに  
久本にい地(岡山県)  
・文字の中に見つけた発見。ほんとうになぜ胸の中に凶があるのでしょうか。桑原謙一(群馬県)ほか



## ◎川柳部門大賞

27 絡まれてあげようきつと辛いんだ  
丸山芳夫(東京都)

・世知辛い世の中にこんな優しい人がたくさんいれば世の中安穏です。井上氣海(広島県)・時として男にも辛い事があります。男と男の思いやりがあつて良い句。長谷川庄二郎(千葉県)ほか  
30 父の日に自己満足の墓参り  
細川光子(栃木県)  
・元気な時に墓参りしよう。松田義登(福岡県)ほか  
32 人間が地球の気候を変えている  
守屋高雄(宮城県)  
・ボンと膝を打った。地球温暖化の因は人間のせいだ。久本にい地(岡山県)ほか  
38 TPP知らずに牛は肥育され  
森 恒雄(愛知県)  
・人間界の騒ぎをよそに牛の本音は如何に。日黒豊光(福島県)ほか

## ◎俳句部門大賞

73 着ぶくれて汽車の切符を捜しけり  
山崎吉晴(群馬県)

・「汽車」だから少年の頃を思い出したか。寒い小さな駅に降り立ち切符は？ポケットのあちこちを探す滑稽。松田重信(埼玉県)・汽車の切符はカバンや

ポケットやいろいろな所をさがします。水落重武(新潟県)・理由あって、毎年二回千葉に行くが素直に切符を出したためしがない私である。井上静夫(栃木県)・乗るまで何度確めるやら、切符のお世話になる事しきり。菅原キイ子(宮城県)ほか

101 物忘れしながら生きて花は葉に  
田中 昶(鳥取県)

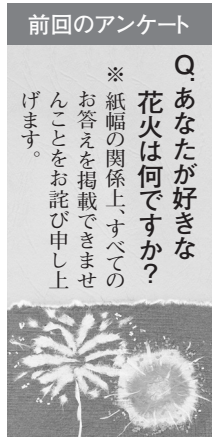
・私のことを詠まれたみたい！なんでも忘れ月日が流れていきます。井原毬子(東京都)・毎日を呆けないようにと心に思いながら喜怒哀楽の人生を過している私ですが自然界もまた花が散り葉となり人生の早さをつくづく感じるこの頃でこの句に共感するところがあります。松前邦広(千葉県)・誰もみないつかは通る道…実感の借辞か…。近藤薫也(千葉県)ほか  
85 もう少し学ぶ事あり山笑う  
林 克(福島県)  
・日頃の自らを顧みての実感。有坂馨園(福島県)・生涯勉強、老いては惚け防止心掛けたし。大橋恒次(新潟県)・私も学ぶこと多し。宇田川正雄(埼玉県)・生きるということは学ぶことでもあるのです。山笑うの季語が効いています。山崎鶴恵(鹿児島県)ほか  
176 不揃いの園児の遊戯風光る  
日名子春実(群馬県)  
・揃わないのがまたかわいらしいもの。ほほえましい光景が見えてきます。宮宅芳子(岡山県)・正にその通り。不揃いでいい、自由があり共に身体を動かすことに意義があると思います。田中美智子(埼玉県)・不揃の子と風光る、上手いです。見ている方のどきどきが伝わってきます。高垣勝代(大阪府)ほか

## ◎フォトイック大賞



194 春の風裾おさえれば髪乱れ  
石原 岳(群馬県)

・マリリンモンローの姿まぶしく遠いロマンを感じました。高須孝(愛知県)・春一番の風のいたずらがよく感じられます。山中たい子(大阪府)  
231 素足から美人とわかるハイヒール  
岩田信(神奈川県)  
・全身をみたらガツカリかも。石尾曠師朗(東京都)ほか  
◎他にも  
22 四季のある日本に生きる幸せをかみしめながら余生愉しむ  
岩崎令子(大阪府)  
34 就活し婚活通過終活へ  
関本 守(新潟県)  
59 石垣の崩るる城や桜散る  
大橋恒次(新潟県)  
61 おくれ毛にささやいてある春の風  
佐々木素風(新潟県)  
89 歩み来し知足の道や花は葉に  
大谷 茂(埼玉県)  
111 母の日や使いそびれし肩もみ券  
長峰正晴(千葉県)  
※今後ふるってご投稿をお願いいたします！



前回のアンケート

Q. あなたが好きな  
花火は何ですか？  
※紙幅の関係上、すべての  
お答えを掲載できませ  
んことをお詫び申し上  
げます。

★線香花火

・風情がたまりません！

・「わびさび」を思います  
関本 守(新潟県)

・小さくて弱々しくて果無い夢があつて  
大好き  
原 崇雄(埼玉県)

・はかなさが見えて好感  
黒岩正子(埼玉県)

・つましいのがよい湯浅芳郎(岡山県)

・庶民的・家族的 宮宅芳子(岡山県)

・人生に似ているから  
濱田イサオ(福岡県)

・燃え尽きてポトリと落ちるところに  
哀感がある 久本にい地(岡山県)

・丸い玉が落ちるまで姉妹で見つめてい  
ました。貧しかったけど懐かしい思い  
出は今の宝です 堅田秀子(東京都)

・息子が幼かった頃最後に丸い火花が  
ポトリと落ちて闇に包まれ泣かれた  
ことが忘れられない  
井原毬子(東京都)

・幼い頃の線香花火に郷愁を感じる  
内河邦久(東京都)

・大仕掛の花火より身近で親しみやす  
い  
石尾曠師朗(東京都)

・子供の頃は姉妹でそして子供と孫と  
いつも誰が一番長持ちするかを楽し  
んだ  
天野輝子(東京都)

・花のような閃光がパチパチと音をた  
てて発散しているような形に変化して  
て  
松前邦広(千葉県)

・小さいけれど優しく可憐でそして  
心にはじけるものを強く感じます  
中田妙子(東京都)

・線香花火の対うに母の面影が映る  
福岡 悟(東京都)

・縁側から庭で花火に興ずる子供達の  
声。小さな幸せに浸る小宇宙の一時  
また楽し  
上村元義(神奈川県)

・夏の夕がよみがえりました  
道給一恵(埼玉県)

・一家で線香花火を楽しむ孫の喜ぶ声  
が夜空に響きわたります  
大久保アヤ子(東京都)

・天の川をながめつつずんだ時の追憶  
がよみがえってきます  
山田良男(埼玉県)

・最後のしっとりした火花を次の火花  
に移すのが楽しい 片山茂子(埼玉県)

・家族のきずなが生まれます  
田野倉訓郎(東京都)

・しまいには丸い火の玉になつてかすか  
にジジッと鳴りながら、火の粉をと  
ばすのはわくわくするほどかわい  
い  
鈴木岑夫(千葉県)

・縁側、浴衣、下駄が似合います  
山口千鶴子(東京都)

・大きな音のする物、大きく開く物は  
逃げていた。それで線香花火は私用。  
今でも時々買って一人でしています  
佐伯セツ子(香川県)

・線香花火の最後のかたまりが落ちる  
のが怪しかった 濱崎祥子(鹿児島県)

・家族とその場面の思い出になつて  
いく  
石井一枝(埼玉県)

・なつかしい人の面影が浮かびそう  
な気がします  
寒川靖子(香川県)

・大切な人との思い出が詰まっています  
目黒豊光(福島県)

・消えそうで色々変化の様が好き  
井上氣海(広島県)

・家族一同で庭先でみるのが明日の農  
作業の活力となっていました  
渡部美代子(山形県)

・パツパツとモミジが始めてヤナギに  
なり、火玉となつてポトン…。なつかし  
い…  
増本和子(大阪府)

・子育て時代の線香花火は思い出です  
富樫和子(山形県)

・井戸の横で六歳上の姉が遊んでくれ  
た。八十五年前のこと  
奈倉楽甫(愛知県)

・囲みを作り、火をつける子、風をよけ  
る子、花火もつ子の目が光り  
菅原キイ子(宮城県)他多数

★打上げ花火  
初めてみた長岡の打ち上げ花火総身  
に感動が走りました。山下清の画集  
を開きました 小山羊子(新潟県)

・柳と云うしだれるうちあげ花火が好  
き  
白戸麻奈(東京都)

・洞爺湖の花火の思い出が焼きついてい  
る  
古谷 力(東京都)

・打上げ花火の豪胆さ  
津田忠彦(岡山県)

・腹に轟く打上げ花火か  
重原 昇(新潟県)

・真下で見上げる感動は最高  
山崎吉晴(群馬県)

・迫力があつて引き込まれます  
阿部幸子(宮城県)

・広天の闇に散る大きな花火に心の深  
部までスツキリ 有坂馨園(福島県)

・尺玉の打ち上げ花火  
西條公雄(埼玉県)

・張筒から空中に放つ打上花火  
浦橋克行(兵庫県)

・子供時代の印象が濃いものだから  
今井忠一(埼玉県)

・花火がひらき少し遅れて腹にひびく  
音がいい  
長峰正晴(千葉県)

・花火大会の最後に多数の花火が連続  
する花火が美しい。一発ドーンの尺玉  
より花火らしい  
青木日出男(群馬県)



# A Q U E S T I O N N A I R E

・妹のマンションで目の前に迫ってくる琵琶湖の花火を見るのが好き

小山恵美子(大阪府)

・壮大な打上げ花火。江戸時代からも有ったこの事 澤 雅子(大阪府)

・昔から大輪の菊の花が夜空に咲くのは見ごたえがあり大好き

井田由利子(宮城県)

・大阪の大川での打ち上げ花火は始まる前から終わるまで胸ドキでドラマチックだった 居原田連星(大阪府)

・隅田川の「コンクール作品」を採点しながら見る 仁藤ひろじ(埼玉県)

・豪快な響きと花火を全身に浴びた、ひと昔前に経験した花火大会

池田 岬(千葉県)

・層雲峡温泉の冬、山肌に映る打ち上げ花火のコントラストは感動的

久保寿雄(北海道)

・幼少期は家の前で香取線香焚きながら後には石狩川の下流迄出かけたもの 堀田寿美子(北海道)

・菊花。毎年九月初め土曜日我が町役場グラウンドの頭上の花火は迫力満点

本庄準也(埼玉県)

・憂さも晴れる豪快さ 宇都木安子(東京都)

・六、七年前大曲の花火大会に行き、すごく感動しました 柳澤京子(宮城県)

・夏空にはしてしない夢を広げてくれる打上げ花火 川嶋法子(東京都)

・漆黒の夜空に輝く打ち上げ花火は爽快です。冬の花火も気に入ってます

和崎治人(山口県)

・関西一のPL花火が家で楽しめます。最後の大音量、超大型、色美しい打ち上げ花火。余韻にひたりボー

奥那於子(大阪府)

・「冠菊(しだれ柳)」余韻を残して散る時間がいい 桑原謙一(群馬県)

・最後の連発花火 鏡たか子(山形県)

・ドンドンドンとリズムを取りながらの音に興奮 田中豊恵(新潟県)

・山陰三大祭の一つ、川下祭りの打ち上げ花火。港湾の空一面に広がる大玉の打ち上げ花火は圧巻

邑橋節夫(兵庫県)

・大きな花火が大川に映るのを見て「生きていてよかった」と思った

中山日出子(大阪府)

・打上げ幅が広い(七百メートルクラスも!)花火が好きです。最近音楽付きも増えて感動もひとしお

小林七重(新潟県)

・戦後初めて家族で花火大会に行き、初めてアイスキャンデーを食べた思い出

中村康浩(福岡県)

・上京してから隅田川・戸田橋・熱海などの花火大会を見ました。私の人生は線香花火

村山徳英(埼玉県)

・還暦祝に皆で上げた思い出の二尺玉花火 中川義彦(新潟県)他多数

★仕掛け花火

井上静夫(栃木県)

・スターメイン、花火の集合体でありメインイベントだから

合田浩子(茨城県)

・ドーンとなった花火はきれいだナァ。空一杯に広がって仕掛け花火が大好き

・諏訪湖の水中スターメイン。圧巻です 一瀬正子(埼玉県)

阿部徳夫(宮城県)

・水中スターメイン。宮城県の石巻市のものは特にすばらしいです

阿部澄江(宮城県)

・ナイアガラ。花火を見ながらナイアガラの瀧をながめているような気分

大橋絵代(千葉県)

・火の粉が落ちてくるが如く近くであおぎ見ながら柳とラストのナイアガラにうっとり

北野耕兵(千葉県)

・山々にかこまれた湖上、漆黒の闇にかぶスターメイン絶景なり

鈴木義雄(福島県)

・どんな形、文字が出るか楽しみです

有島和子(東京都)

・幼い頃、夏祭りのメインで花火大会があり「枝垂れ柳」を目の前に観て感動

石川郁子(埼玉県)

・次々に上がる花火におどろきと喜びがわきあがります

三津木俊幸(千葉県)

★遠花火

城山憲三(愛知県)

・音が聞えないのいろいろと想像できます 遠花火人ごみをさけて虫の音も楽しむ

黒澤正行(福島県)

・遅れて来る音に余情を感じる 遠花火闇を一気に開きけり

中村和弘(愛知県)ほか

## ★ねずみ花火

・子供の頃動きの早いのがこわくて大人の影にかくれながらも楽しみました

堀木和子(大阪府)

・火をつけるおもしろい。もう一度したいけど、おもしろい。もう一度したい

石原 岳(群馬県)

・わかっけても大き過ぎました 寺内 侖(埼玉県)

小泉和明(茨城県)

・茶目つ気たつぷりのあばれぶりがおもしろい 大矢知順子(神奈川県)ほか

有田裕子(北海道)

★その他

木村誠一(神奈川県)

・花火にはそれぞれ特徴があり夏の代名詞、全部好きです

今井勝子(新潟県)

・デンキ花火。ぐるぐる回して楽しかった

神一 男(静岡県)

・運動会の始まりを告げる音と煙だけの花火

近藤富夫(東京都)

・花火つてあとにむなしさが残りませんか?

小林恵子(大阪府)

・海上花火。以前熱海で見て以来欠かれません

星 一子(神奈川県)

・都会ぐらしでは打上花火以外の花火は考えにくいのが現状です

高柳閑雲(愛知県)

・どんな花火も大好き、花火と聞くとワクワク

手筒花火

・家族で楽しめる手持ち花火が大好き



6月号へお寄せいただいたお声の一部をご紹介します！

皆様のご感想、はげまし、親身なアドバイスで情報誌「喜怒哀楽」がつくられていきます。

- ・菜根譚は夏目漱石の「門」の中でもとりあげられていたもの、気になっていたののでわかりやすい書き方で「温古知新」にとりあげていただいております。
- ・川崎游の会、いずれの句も佳句ばかり。それをさらに秀句にするための高田正子氏の指導に感銘を受けました。「ほめて育てる」よりも「気付いていないことを教える」ことも大切な座。ワンランク上の句会と思いました。
- ・松田雄姿様との対談、もう一度確りと俳句の原点に戻る思いを抱いた。
- ・フォトブックでのあのスカートの写真で「マリリン・モンロー」をイメージした方が25%もいらしたとは面白い結果がでましたネ。
- ・アンケート「エコ活動」は沢山の意見があり大変参考になりました。
- ・「新潟ぶらり」 會津八一記念館が移転されたとのこと。以前松林の中にあった記念館を思い出します。書の額が印象に残っています。
- ・にいがた文化の記憶館便り「越後人のねばり2」 父とつながる先祖も越後人気質のねばり強さがあったんだなあ。
- ・食楽句楽のすすめ「恍惚のさくらんぼ」 国産のサクランボは高価で手が届かない。思い切りたべたいけれど、そんな食べ方はダメ。暗黙のルールにのっとり、片思いの恋を味わいます。
- ・リレーエッセイ盛田志保子さん「五月の歌のことば」。作者のすばらしい感性に感動しました。
- ・なつかしい遊び玩具シリーズのビー玉。小学生の頃のビー玉当てなつかしい！
- ・生涯学習として読んでいますが皆様すばらしく毎号「感動、の二文字です。
- ・他県で生活している妹とこの紙上で句の批評をしあっています。毎号楽しみにしています。

※今号へのお声も、ぜひお寄せください。

## 新潟ぶらり

### ★會津八一の歌碑―ふるさとのはま

會津八一（新潟出身の歌人、書家、東洋美術史学者）は昭和二十年四月三十日、帰郷している。東京大空襲で焼け出されてのことだった。傘一本だけ持って逃げるのが精いっぱいだった八一の秋艸堂（新宿区下落合）は、万巻の書とともに焼失。半月後、毎日新聞の厚意で手配された飛行機に乗り、新潟に着いた。

みやこべを のがれ きたれば  
ねもごころに しほ うちよする  
ふるさとの はま

（歌碑・新潟県立図書館）

おりたてば なつ なほ あさき  
しほかぜの すそ ふき かへす  
ふるさとの はま

（歌碑・旧會津八一記念館）

このとき八一は六十四歳。何もかも失った八一に、故郷の海風が話しかける。

生誕の地には次の歌碑がある。

ふるさとの はまの しろすな  
わかきひを とともに ふみ けむ  
ともをしぞ おもふ

（歌碑・會津八一生家跡）

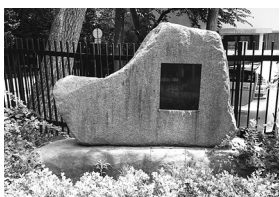
若き日の友を思い見つめる浜辺。その人はもう傍に居なくても、過ごし

た日々が支えとなり、心のなかですつと応援し合っているのだ、きつと。

それから十年後の昭和三十年、八一はある書を完成させる。「山河慟哭」（新潟縣護国神社蔵）。蒲原ひろし氏（俳誌「雪」主宰）に「蒲原君、会心の作ができた」と話したという。その後病が篤くなり、翌年逝去。戦死した人たちへの思いをこめた書を完成させ、旅立ったのだ。

八一の歌や書にふれると、いま生きていくものだけで、目の前にあるものだけで、世界が出来ているのではないことを思う。旧記念館隣の林の向こうは海。姿は見えないが、波音がきこえてくる。

（菅真理子）



（右）新潟県立図書館（新潟市中央区女池南）

（中央）旧會津八一記念館（新潟市中央区西船見町）

（左）會津八一生家跡（新潟市中央区古町通五番町）

にいがた  
文化の記憶館  
便り(9)

獨往の文人 會津八一

秋岡 啓子

會津八一(1881~1956年、新潟市生まれ)の個性的な文字は、新潟の方なら、地元の新新聞「新潟日報」の題字や、お菓子屋さん、お茶屋さんの看板などで一度は見たことがあるでしょう。八一(号は秋艸道人)がしばしば好んで揮毫した言葉に「獨往」という二文字があります。意味は、「自分の信じる道をひとすじに進むこと」。この言葉には、歌壇や書壇に所属せず、独自の芸術を切り開いた八一の生き方が表われています。

少年時代の八一は左利きだったので手本のとおりのが書けず、習字の時間が苦痛だったといえます。当時、八一の字を見た教師には「涙が出てかなわん」とまで言われました。しかし18歳のころ俳句活動を始め、地元紙の俳句選者となり、短冊を書く機会も増えて次第に八一の字は評価されるようになります。その陰には、誰にでも読める字を目指して、ひたすら独学で字の練習を重ねた八一の努力があります。晩年の創作でも、自分が納得できるまで同じ文字を200枚、300枚と書きました。

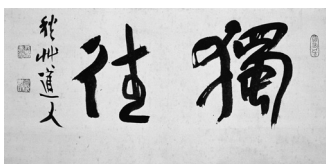
八一は22歳のとき早稲田大学文学科に入学し、近代文学の開拓者・坪内逍遙に師事。卒論のテーマには英国の詩人・キーツを選び、卒業後は新潟県上越市の有恒学舎(現県立有恒高校)の英語教師となりました。後に東洋美術史学者となる八一ですが、西洋の近代文学が素養として身につけていたことが分かります。

転機は27歳のとき初めて奈良を旅行したことでした。もともと万葉文学に惹かれていたこともあり、すっかり古都に魅せられた八一は、生涯に35回以上奈良を訪れています。現在、會津八一の自詠自筆の歌碑は全国に49基ありますが、そのうち20基が奈良にあります。最初に建てられた歌碑は新薬師寺の「ちかづきてあふぎみれどもみほとけのみそなはずともあらぬさびしさ」。初訪問時に詠まれた歌で、「香薬師像のそば近く寄って仰ぎ見るのだが、そのうつとりとしたまなざしは、私をご覧くださいるようではない。このさびしさよ」という意味です。このとき八一が対面した香薬師像は、残念ながら1943(昭和18)年に盗難に遭い、現在は所在不明です。

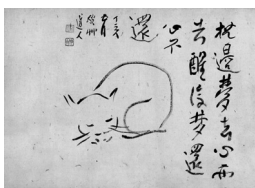
29歳で再上京。母校などで教壇に立ちながら、東洋美術の研究に没頭。文献資料の読解だけでなく、実際の美術品(寺院や仏像)の研究を離れては学問たりえないという、当時としては前例のない独自の研究方法を取ることが重視されました。1938年、早大文学部に芸術学専攻が設置された際には初代の主任教授に就任し、後進の教育にあたりました。八一の教育指針であり、自身の戒めでもある「学規」四則は次のとおりです。

- 一 ふかくこの生を愛すべし
- 一 かへりみて己をしるべし
- 一 学芸を以て性を養ふべし
- 一 日々新面目あるべし

この4項目は今も広く知られ、親しまれています。會津八一は、まさに学問と芸術の両分野に精通した「芸の人」といえます。



▲會津八一(獨往)  
新潟市會津八一記念館蔵



▲會津八一(枕邊夢去心亦去)  
新潟市會津八一記念館蔵



▲會津八一

【展覧会情報】

會津八一没後60年記念特別展  
「究極の趣味人 會津八一 VS 川喜田半泥子」

- 会 期:9月25日(日)まで開催中
  - 休館日:月曜(祝日の場合は翌日。ただし9月20日は開館)
- ※現在、隣接する會津八一記念館の特別展第2会場となっています。

「食楽句楽のすすめ」の執筆者・岩田桂さんは、岐阜県生まれ、新潟市在住の元大手企業の企画マン。畑を耕し、俳句の主宰をつとめ「食楽句楽」を実践しつつ人生のセカンドステージを満喫されています。食と俳句とのコラボレーション、当意即妙のエッセイをご賞味ください。

## 夕風と枝豆

岩田 桂

酒は井戸水で冷したラガービールがいい。肴は優しい妻が夕風に吹かれながら茹で上げた枝豆でいい。それが新潟の黒崎の茶豆だったら、もう何時死んでもいい。歌手の八代亜紀さんらしい歌のイメージです。男たちが描く夏の夕方の、ささやかな演歌調風景です。

この「夕風と枝豆」の風景の根幹には、「茹でたての枝豆が食卓にのる家は、円満な家庭である」と言う、ささやかな願望があります。

誰が言い出したのか分からないが、そう言われれば、「そんなもんかねえ」と相槌を打ちたくなるのも、枝豆のある仕合せ風景です。

### 枝豆の夕餉夢みる男たち

しかし反論を企てる人もいます。「最近の枝豆は冷凍の中国産が多く、キミんちの枝豆もそうじゃないのー」と、憎たらしい言で応戦します。

たしかに最近の農産物は、海外産が急増しています。枝豆もほうれん草も言われる通りです。日本民族は農作物も魚も真剣に栽培しなくなり、食料自給率は四〇%を切っているからです。

だけど枝豆ごときで、日中貿易問題を話題にするなどは大人気ない。キミが日本の食料安保問題を、枝豆を引き合いに出して憂うのなら、それはそれで別次元の話です。

そうか、キミは独身だからそんな偏見を持っているのだろう。そうだろう。家庭の味に飢えているから、そんな事を言うのだろう。ズバリだろう。まあ、いいか。

### 枝豆のまこと夕餉の味したり

おととと、枝豆に関しては人格問題までが絡んで

きます。もうこれ以上は、「枝豆の家庭円満論」に立ち入らないでおこう。

しかしこの枝豆は栄養もあり、とにかく重宝されます。枝豆とビールをやり過ぎると、プリン体が過剰になり、メタボになる危険性があるようだが、まあ、そんなことは気にしないでおこう。枝豆のない夕餉なんて、気の抜けたビールみたいに味気ないからね、そうだろう。

それよりも枝豆のエライところを見直そうではないか。枝豆は「とりあえずの枝豆」と言われるくらいに、「とりあえず界」の王様だからです。

\*とりあえずビールのつまみに  
\*とりあえず三時のおやつに  
\*とりあえず茹でて冷凍保存して  
\*とりあえずナイターを見ながらのつまみに  
\*とりあえず旦那の機嫌とりに

など食前食後や昼寝の後先、夫婦喧嘩の後先にも「何はなくとも、あたり亀田の柿の種……」ならず「とりあえずの我が家の枝豆……」なのです。

### お通しのまずは枝豆出されけり

ところで枝豆を食べるには、どのようなポーズがそれらしき容でしょうか。あなたならどうしますか。どのように付き合いますか。

たとえば鞘ごと口に放り込み、豆だけを搾り出して、鞘を口から取り出す。たとえば体を横たえて肘枕をしながら、本などを読みながら片手でつまむ。殻を捨ててはまたつまむ。

この繰り返しが「枝豆ポーズ」としては最高ではありませぬか。時折枝豆の皿の位置を確かめながら、無心に手を伸ばし、もっぱら本に夢中になるひと時は、物心満たされる時ではありませんか。

人はなぜ枝豆となるとこのように横柄になるのか。不思議です。そこには枝豆とのなれ合いや「添い寝思想」が古来からあるような気がします(ないか)。

### 枝豆に片手取られてゐるナイター

しかもこれだけ片手であしらわれ、酷使されても、この枝豆は決して愚痴も悲鳴もあげません。「内助の功のお千代」と言われる所以です。決して目立たず、いつもご主人様の脇役として、その存在を示しているのです。ビールのお供をしているのです。



ならばせめてお嫁さんを貰うなら、断然、枝豆のような人が良いと言いつつ人が現れてくる。これを「豆なお嫁さん」探しといいます。嫁不足の田舎では、喉から手が出るほど欲しいお嫁さん像です。

前述の「茹でたての枝豆が食卓にのる家は、円満な家庭である」というささやかな男の願望の源流が、実は嫁不足にある気がするが、ないか。もちろんあくまでも身勝手な男どもの臆想じゃないかとも言われます。ハイ……、返す言葉ありません。

その枝豆が今年も五月から出荷する極早生品種の「弥彦のすめ」に始まり、七月からは「湯あがり娘」などの白毛品種、八月からは「新潟茶豆」が中心となり、その後も晩成品種が十月初旬まで生産出荷されます。

その枝豆を久しぶりにおやつにと、茹でてみました。枝豆つて、どんな味だったっけ、と舌と相談しながら探ってみました。するとなんだかゆつたりしていた昭和の時代が蘇ってくるではありませんか。おお……このぷりぷりがたまらないなあ。正にあの頃の味。

しかも枝豆を掴んでいると、タライの行水、打ち水、開けつ放しの玄関の戸、麻の白い日傘、卓袱台、風鈴、端居など昔の記憶がいろいろと蘇ってきます。まるで枝豆のひと鞘毎にそれらが詰まっているかのように感じます。

この青々と生い茂った枝豆が、夕風の吹く越後平野に匂の収穫を待っています。(注…枝豆は大豆の若い内に収穫したものです)都会からお嫁さんが来てくれるのを待っています。

### 枝豆の青々とあり嫁不足

## フォトイック 伊丹三樹彦様からのお手紙

フォトイックの写真を提供して下さる俳人、写真家の伊丹三樹彦様。96歳の今も現役で精力的に出版を続けていらっしゃいます。お会いしたことはありませんが、いつもすぐにあたたかいお返事をくださり、あつという間にファンになりました。

### ● 写俳の同志へ 伊丹三樹彦

「喜怒哀楽」の名に一驚した。こんな情報誌は唯一だ。ついでフォト一句に二驚した。命名の達人だ。私は五十歳で欧州吟行に初参加した。ショートショートの眉村卓らも同行。当時はペンカメラの時代で、私も首に提げて居たらパリジャンから譲ってくれと何度か言われた。無論、私はこれの撮影に熱中。見聞のすべてにシャッターを切った。昼は俳人ならぬカメラマン。夜は、ホテルでの作句で本領発揮。これを昼撮夜吟として、写俳両道に開眼。帰国して別号の写俳亭を設け、岩宮武二の弟子となり、二科展に応募し九回入選。好きなわが街、神戸百景展なる初個展以来、東西での写俳展を続行。映画青年歴を活かし欧米亜の海外撮影も。写真も俳句も瞬機を把握して表現する。ここでは映像からの閃きを十七音詩にすればいい。季語の有無も問わない。口語表現も自由。写真に即して、離れての発想、つまり、即かず離れずの呼吸が良い。写俳の命名は半世紀を経て、漸く市民権を得た。

#### プロフィール

2003年 現代俳句大賞受賞。  
その他、兵庫県文化賞等、多数受賞。  
2006年 「青玄」を607号にて終刊。  
現在 季刊誌「青群」顧問。



## 第2回 俳スクール大賞

応募資格：高校生(応募は無料)1人3句まで(未発表作に限る)

応募締切：平成28年9月16日(金)17時

応募方法：住所、氏名、高校名(学年)を明記のうえ  
下記メールまたはFAXまで。

選者：赤塚五行(俳誌「朱鷺」主宰)、  
和田造(新潟経営大学教授)

表彰：大賞 1名 図書カード3万円  
特選 5名 図書カード1万円  
入選 10名 図書カード3千円

問い合わせ：新潟経営大学「俳スクール大賞事務局」

電話 0256-53-4522 FAX 0256-53-4544

メール wadah@duck.niigataum.ac.jp

## 「ご縁ブック2016」「2017年手帖」 ご注文はお早めに! ※詳細は同封のチラシ参照

## ポストカードブックを発売!

春夏秋冬、季節の花々を描いたボタニカルアートのポストカード。各シーズン8枚×四季の全32種類が揃い、ポストカードブックとして新たにお目見えしました。この機会にお買い求めください(詳細は同封のチラシ参照)。

## 増刷承っております

かつて当社で自費出版の本を作ったくださった方。もう手元にはないので、増刷したい等のご希望がございましたら、お気軽にお問合せください。

## スタッフの一言

### Q. あなたが好きな花火は何ですか?

※古き良き時代の玩具、水に浮かせて遊んだブリキの金魚といっしょに。

木戸 敦子



昔、屋上から家族で見た新潟大花火。その日はなぜか「とんかつ政ちゃん」のかつ井に枝豆となす漬。8月下旬だったためこの楽しみが終わると宿題と格闘。花火と共に知った儚さ。

古川 久美子



子供のころは、パラシュートが出てくる打ち上げ花火が、誰が落下物をとるか競争したりしたもの。でもそんな元気はもうない。そういえば、「へび花火」ってまだあるのかな。

菅 真理子



豪華な打ち上げ花火もいけれど、手持ち花火のやさやかな感じも好きだなあ。花火セットを選ぶのも楽しい。

山田 千秋



新潟県に住んでから長岡花火のフェニックス、柏崎花火のワイドスターメインが好きです。が、まだ見に行ったことがありません。テレビで見て好きになりました。きつと行きます。

木伏 美恵



地元近くの花火大会で最後にあがる二尺玉の打ち上げ花火。子供の頃は家族と、学生時代は部活の仲間と。現在は主人と子どもと。いつまでもこの花火大会が続きますように。

上村 真智子



最近見かけないようですが、「スポテ牡丹」という薫の先に火薬がついている線香花火。紙でできているものより綺麗で長持ちしたような気がする。調べたら西日本に流通しているとか。

金子 ゆり子



長時間の大きな花火大会はどいつも飽きまてしまいます。家の前とかでする線香花火みたいなのは大好きです。今は小さな子どももいないので何年も花火はしてません。

石山 由希子



子どもの頃、12キロ離れた新潟大花火を遠くから見るのが恒例でした。自宅近くの高台から家族と見るちっちゃい花火。小学校夏休みの記憶と重なって、懐かしい思い出です。

吉田 瞳



娘の誕生日が花火大会ということもあり、私は打ち上げ花火が大好きです! 胸に響く音の後に咲く大輪の花火は夏全開です! いつか記念花火をあげたいものです!



水着でプリキュアのポーズ♡ 今年5歳の誕生日を迎えます!



## 太陽をほしがった父

雪舟えま

七月になり、小樽もやっと夜歩きしたいくらいに暖かくなってきた。さいきんは夫と、真夜中に片道三十分ほど歩いて、二十四時間営業のスーパーに買い出しに行くのが楽しい。家を出たときには真つ黒だった夜空が、帰り道ではインディゴといえそうなくらいに明るくなってきたのに気づく。通りすがりの歯医者者の玄関についている時計を見たら、まだ二時五十分。ワー、ワー、まだ三時になってないよ、日の出ってこんなにはやかたつたけ？ と、未明の住宅街を興奮しながら歩く。何度おなじしチュエーションをくりかえしても毎回りちぎにおどろく。

いま住んでいるアパートは小樽駅の裏山にあつて、東向きの窓から、海上にのぼる朝日がぼちり入る。太陽が私の顔の高さまでのぼつたとき、真つ赤な朝日は部屋の奥の壁にまっすぐに突きあたり、ドアのガラスをすりぬけて廊下の奥の玄関にまで届く。小さな部屋は空間がイクラ色に染まって、なんだかこの世と思えない。でもこれが現実なのだった。私はわざわざ太陽の真正面に立ち、顔に、体の前面にまともに陽光を受ける。冬の寒い室内でも、強烈な金色を浴びている部分だけはじんわり暖かいくらいだ。光にくらんだ目は、しばらくは「雪目」のような状態になっていて、視界の中心がよく見えなくなる。これってあまり目によくないんだらうなーと思いつつ、くせになつてやめられない。

朝日を浴びていると父を思い出す。父は家を建てるときに

今回からご執筆いただく雪舟さまは歌人、小説家のほかにも朗読ライブやバンド活動など多岐にわたる活動をされています。家にまつわるお父さまの思い出、夕日が差し込む会社でしみじみ拝読しました。

あまり熱心ではなく、設計を他人任せにして、その結果、西向きの家ができた。三十五年まえの話だ。父は新居にじつさい住み始めてから、「この家は朝日が入らない、欠陥住宅だ」と騒ぎだした。それまでひとことも、朝日が入る家になりたいなんて口にしたことなかった人だったから、皆びつくりした。父自身も、引越してから、自分にとって朝日がどんなに大切か気づいたのだと思う。そんなわが家で朝日がいちばんあたるのは風呂場で、風呂場の窓は小さかった。設計時に無関心だった自分がわるいんだけど、父は一生に一軒しか建てられないだろうマイホームづくりにしくじった現実を受け入れられず、酒が入るとその話を何度でも蒸し返して「ほんとうにくだらな家だ」と、家族に八つ当たりをした。父がいの家族は朝日にとくに思い入れもなく、「くだらない家」でそれなりに快適にすごした。

父が朝日を手に入れたのは、家を建ててから三十年以上ものち。定年退職したあと二階を改装し、屋根や壁だった部分に大きな窓をいくつも作った。窓の前に座椅子をおいて、いま思うさま朝日を浴びているという。

父が何十年も想いつづけた朝日を、私は思いがけず最高の形で獲得してしまった。賃貸の安アパートだけど。若いとき父に、こんなふう朝日で金色になる部屋での暮らしをさせてあげたかったなと、朝日を顔に体を受けるたびに思う。

### ●プロフィール

1974年 北海道札幌市生まれ。

歌集に『たんぼるぼる』、小説に『タラチネ・ドリーム・マイン』、『幸せになりやがれ』ほか。

アルバムに『ホ・スプリングサーティー』。現在は小樽市で夫と二人暮らし。

### 編集後記

ある程度の年数を生きてくると、幼少期、思春期、現在の中年期が各々点にしているわけではなく、点をつないだ延長線上にしか自分はないことがわかってくる。多少性格や人生観が変わることもあるが、基本明日から私が数式を解くことも、指揮棒を振ることもたぶんない。今回お話を伺ったP3のお二人もやはり幼い頃、絵を描くのが好きだったという。「好き」をつなげた先に行く末はあるのか。貫く棒のような「自分」を知るために遅いことはないだろう。そのためには、わからないことだらけでも、達観することなく「あらまあ」と驚いたり、わくわくしたり、心を動かしながら点をつないでいきたい。(木戸敦子)

2016. 8-9. vol.87 (2016年8月10日発行/隔月発行)

●発行・印刷/株式会社ミュージズ・コーポレーション

〒950-0801 新潟市東区津島屋7-29

TEL 025-250-9555 FAX 025-250-9550

☎ 0120-819-395

喜怒哀楽書房



株式会社ミュージズ・コーポレーション

e-mail odp@eseihon.com / HP http://www.eseihon.com

郵便局口座番号 00530-4-81370 口座名 株式会社ミュージズ・コーポレーション